

平成17年10月17日

淀川水系流域委員会 様

上野遊水地連絡協議会副会長
小田町住民自治協議会会長
佐 治 行 雄

川上ダムの早期着工について

先日の意見交換会でも懇願させていただきましたが、過去に百回、二百回いや数え切れない大洪水の被害を被って来た我々の地区は、どの家も三代も四代も前から苦しみぬいて生きて来ました。

農家は、度重なる水害により、畑の収穫も皆無、稲作にとって一番大事な出穂期に当たると米の収穫も皆無と、農家にとって丹精こめて育てた作物の収穫が無いほど惨めな事はありません。その上、耕作地の復旧作業など口では言い尽くせない苦勞の連続でした。

これも岩倉峡が堰になり逆流し、氾濫して大洪水となる。我々は祖父の時代からこの惨状を国に訴え続けて来ました。事ここに至っては、もはや天災ではなく人災です。岩倉峡の開削が出来ないのならば、なぜもっと早く対策を考えていただけなのか。長い間、これほどの被害を受けている者を見殺しにするのか。私が、まだ二十歳前だったと記憶しておりますが、大戸川東の国道163号の堤防三角地にたまりかねた農民が集合し、岩倉峡開削総決起大会を決行、当時地元出身の建設省官僚が通るのを待ち、雨の中、むしろ旗を立てて抗議行動に出た事もありました。

当時、苦勞した先輩たちも老いて少なくなりました。子孫のためにも一刻も早く解決の道筋をつけておきたい。環境も大事でしょうが、我々は命がけです。

流域委員会の皆様方、我々の地区を、そして住民を見捨てないでいただきたい。どうかよろしくお願い致します。